B　本時の授業の実際と研究協議の内容

1　本時の授業記録

授業者の様子（発問・指示・援助）	児童の様子
T：「今日は『ばかじゃん！』というお話を読んでいきます。友達同士のトラブルについてです。早速見ていきましょう。」 ＜電子黒板を使い、教材文の提示（スライド）＞ ＜スライド終了後、相関図を貼る＞ ＜あらすじの確認＞	静かによく聞いている。
T：「かおりちゃんって何の友達？」 T：「きのちゃんは？」	C：「前の学校。」 C：「新しい学校。」
「自分だけがきのちゃんに「ばかじゃん！」と言われていると感じ、恵理菜はどんな気持ちだったでしょう。」	
＜黒板に発問の文を掲示する＞ T：「自分だけが「ばかじゃん！」と言われたとき、どう思った？」 	C：「悲しく思った。」 C：「できたばかりの友達に言われて傷ついた。」
T：「だから、恵理菜は元気がなくなってしまったんだよね。そんな中、どんなことが起こったのかな。」	C：「前の町でかおりに会った。」
「知らんぷりをせず、かおりに声をかけた恵理菜の気持ちを想像しましょう。」	
T：「思い切ってかおりに声をかけたんだよね。じゃあ、そのときの恵理菜の気持ちはどんな感じだったかな？」	C：「急に無視された理由を聞きたい。」 C：「知らんぷりするか迷った。」 C：「話してもらえるか不安。」

「かおりの話を聞いて、恵理菜はどう感じたと思いますか。」	
T：「誤解だったってことが分かったんだよね。じゃあ、かおりの話を聞いた恵理菜の気持ちはどうだったかな？」	C：「もっと早く誤解を解いていけばよかった。」 C：「無視をしていたのは相手の方が先だと思っていたから驚いた。」 C：「お互いに傷つけ合ってしまった。」
T：「これからの展開はどうだったかな？」	C：「きのちゃんに会いに行く。」
＜ワークシートを配布＞ ＜発問の文を黒板に掲示＞ 「次の日の朝、恵理菜はどんな思いで真っ先にきのちゃんの席に向かったと思いますか。恵理菜の気持ちになって書きましょう。」 T：「恵理菜になりきって書いてみてください。」 ＜机間指導＞	
T：「じゃあ、聞いていきますね。」	C：「かおりのときと同じように話し合えば、誤解は解けるかもしれない。」 C：「あまり話したくはないけど、あの『ばかじゃん！』がどういう意味か分かるかもしれない。」 C：「きのちゃんも悪気があったわけじゃないのではないか。」 C：「前の学校では失敗しちゃったから、新しい学校ではちゃんと解決したい。」
T：「話しかけたくなかったという意見もあったけど、本当はどうだった？」 T：「親友なんだから仲直りしたいよね。」 T：「他にもまだあるかな？」	C：「話しかけたい。」 C：「きのちゃんが『ばかじゃん！』って言ったのには何か理由があるのかもしれない。」 C：「今回も自分の勘違いかもしれない。」

T：「なんで仲直りできたのかな？」 「これから友達とどのような関係を築いていきたいですか。自分の体験がある人は、その体験も書いてみてください。」 ＜机間指導＞ T：「また何人かに発表してもらいたいと思います。」 T：「きのちゃんのように、自分の非を認めることや、恵理菜のように話し合って解決することって大事ですよね。」 **＜板書の実際＞**	C：「わだかまりをそのままにしないで、ちゃんと話し合ったから。」 C：「恵理菜さんみたいに、僕もちゃんと話し合って解決したい。」 C：「友達に誤解されることがあるので、誤解されるような言葉はつかわないようにしたい。」 C：「言葉だけではなく、行動にも気を付ける。」 C：「今まで友達と小競り合いがあったが、これからは話し合って解決していきたい。」 C：「仲が悪くなっても、話し合うことで仲直りできる。」